

こんにちは いつもお世話になっております

三栄です

第60号

発行元

株式会社
三栄サービス
東村山市久米川町
1-16-5
発行人 紺野琢生



IPSUs 0002394

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

株式会社三栄サービス

代表取締役 紺野 琢生

令和初の新年、本誌も第六〇号とおめでたいお話をしたいところがございますが、わが業界では、『資源回収システム非常事態宣言』を採択するよいうな事態になっています。昨年初より続落した古紙の輸出価格は一二月には段ボール二〜三円/kgと、仕入れ価格（日経相場六〜七円/kg）を割り込む逆ザヤ状態になっています。このことで、輸出をメインに販売していた古紙問屋は仕入価格を下げ、小規模の事業系古紙回収や集団回収を放棄、最悪の場合は廃業するところも出てきています。弊社は国内製紙会社に

収めておりますが、輸出価格の影響を受け、値下げをされているのはもちろんですが、何より段ボール古紙を中心に大幅に余剰していることから、納入枠の削減や荷止めを強いられ、在庫があふれています。当社としても経費削減や回収効率の向上など自助努力をしていますが、人件費や燃料費は高騰する一方で、現状維持するにも厳しい事態となっております。このため、お持ち込みのお客様の仕入れ価格の値下げ、お引き取りのお客様へは回収手数料のご負担をお願いしています。また、集団資源回収については、組合を通じて行政に支援を要請するなど、何とか資源リサイクルの輪を止めないよう努力しているところでございます。

皆様方には、当面ご心配、ご不便をおかけすると思いますが、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。年初から、このようなご挨拶で大変心苦しく感じています。社員一同、力を合わせてこの難局を乗り越えてまいります。引き続きご愛顧の程宜しくお願い申し上げます。
引き続き、台風災害の被災地での支援活動を実施
前回号でご報告した佐野市、茂原市に引き続き、十一月二十四日（日）には、日資連青年部で長野市へボランティア活動に行つて参りました。



千曲川が決壊したすぐそばにある津野サテライトセンターから、近くの農家の方の畑の泥の掻き出し作業をさせて頂きました。決壊現場のすぐそばということ、これまで様々な被災地に伺ってきましたが、その中でも一番被害が大きく、目を疑うような光景が広がっていました。また、この辺りはアツプルラインという愛称のついた国道が通っているほどりんど農家が多い地域ですが、落ちたり、木になつているものの泥水に使つてしまひ商品にはならないものも多いようでした。何より、農家の皆様は今はまだ目の前の現状に呆然自失状態で、前向きに農業を再開できているのはまだ先だとおっしゃっていたのが気になります。そして、昨年は農業被害が多く、段ボールの出荷にも影響が出ていると



講師による対面点呼の実演の様子

のことでした。また、冬の期間は雪の影響で復興支援活動も出来ない期間もあり、まだまだ支援の手が必要です。
今年も回収車両運転者安全講習会に参加しました。
去る令和元年十一月二日、東多摩再資源化事業協同組合安全講習会に社員全員で参加しました。今年も、点呼の重要性、飲酒管理、健康管理について実演やパッチテストなどを交えて学びました。当社では、今年から新たに木村秀昭、廣住眞弓の二名を加え、運行管理者が四名になりました。この講習会での学びを生かして、しっかりと運行管理を行つてまいります。